

愛媛県地域課題解決活動創出支援事業（市町モデル事業） 事業計画書

市町名 久万高原町

1 事業名	<p>提案団体における事業名を記載ください。</p> <p>畑野川「花夢の里づくり」事業</p>
2 事業目的	<p>① 提案された企画内容は、事業の趣旨である社会、地域の課題解決に資するものですか。地域社会にとって必要性、重要度が高いと考えられますか。</p> <p>畑野川は朝日新聞から「にほんの里百選」にも選ばれた美しい里です。しかしその畑野川も人口減少と高齢化などで、以前と比べて人と人とのつながりが弱くなり、各種行事も次第に衰退し、コミュニティ活動も以前に比べて元気がありません。そこで本事業では、もう一度人と人とのつながりを取り戻し、お互い様で助け合って暮らす楽しいコミュニティを再生する手段として「花夢の里づくり」事業を計画しました。まちづくりの要諦は、地域の現状や資源を正しく認識しこれを有効に活かすことです。高齢化率は高いが美しい田園風景の畑野川では、お花が好きな高齢者が多く自宅の庭や家の周りに四季折々の花が植えられています。しかし残念ながら、現状では各人がバラバラに花を植えており、また通りから見える配慮にも欠けており、地域の魅力とまではなっていません。そこで本事業では花に着目し、そして高齢者も参加できることを考慮して、現在個別に植えられている花を地域全体で統一することにより、花による美しい里づくりを目指します。本事業の目的は花による美しいまちづくりだけではなく、花をテーマとすることにより高齢者の参加も可能として、高齢化地域においてもう一度地域のつながりを再生し、安心して、楽しく愉快地に、そして誇りをもって暮らせるまちを創ることが本事業の真の目的です。花に夢を託してまちづくりをするので、「花夢の里づくり」と呼ぶことにします。</p>
3 事業内容	<p>① 課題解決のために提案する企画内容を記載ください。事業内容が複数に分かれる場合は、事業毎に記載してください。</p> <p>なお、事業の実施時期、実施場所(会場)、参集範囲及び参加予定人数等を具体的に記載ください。</p> <p>まちづくりの手順は、①地域を知る、②地域を考える、③地域を創る、です。そこで、先ず今年度は、地域を知ること注力します。「地元学」の手法を活用して、みんなで畑野川の現状を「まちあるき」(時期は秋、参加者は約 100 名)で確認し、写真を撮ったり、花を植える適当な場所を探したり、さらには花についての聞き取り等を行い、「花」について地域を知る活動を行います。</p> <p>次に、この地域を知る調査により明らかとなった地域の現状を踏まえて、どのような「花夢の里」を創るかをみんなで考えます(企画立案は約 30 名のスタッフで担当)。短期・中期・長期の計画を考えたいと思います。作成した計画案は総会で示して、みんなの意見を取り入れて修正して最終案とします。短期の計画については「歩きながら考える」をモットーとして、今秋に地区の理解が取れてやりやすい場所に来春のためにみんなで花を植えます。そして来春には、第 1 回の「畑野川・春のお花祭り」を開催します。「美しいまちづくり」に関する講演会やシンポジウムの開催、美しい花の咲いた里めぐり、等を行い、みんなで美しいまちづくりの意義について考えます。地域を外部の若い目で見てもらうために、愛媛大学法文学部の地理学教室と観光まちづくりコースの学生による里めぐりと報告会も開催します。さらには、地域の婦人による地域の伝統的食文化の発掘と再現を行い、みんなで試食会を実施します。</p> <p>次年度はさらに、「お花マップ」と中・長期の「花夢の里づくり」基本構想を作成します。「お花マップ」は、本事業の終了直後に予想される畑野川のお花の現状を示したもので、カラーで印刷し全戸配布し、「花夢の里づくり」の周知に努めます。基本構想については、前年度の調査をさらに深化させるために第 2 回目の「まちあるき」を行い、さらには地域住民の意向調査を実施し、それらを基にして構想案を作成します。この構想案は、その後地域での説明会を行い地域住民の意向を反映させ、事業最終年度末には基本構想として結実させます。</p> <p>また秋には、「畑野川・秋のお花祭り」を開催します。春のお花まつりと同様に、みんなでお花の里めぐり、伝統的な食文化の発掘と試食会を行うと同時に、前述の愛媛大学の学生の審査による「わが里は美しく」コンテストを行います。</p> <p>これ以外には、定期的な「お花の学習会」を開催するとともに、「お花の種・苗交換会」も適宜実施します。また、活動の情報を公開するために、ホームページの作成や広報紙「美しい畑野川(仮称)」の発行を予定しています。</p> <p>この美しい里づくりが町内全域に展開され、景観に対する「まなざし」を多くの人が共有し、久万高原町が日本を代表する美しいまちになることが期待されます。さらには、美しい</p>

	<p>まちを地域資源として都市農村交流が一層促進されることも願われます。</p> <p>② 構成NPO等への支援内容を具体的に記載してください。 本事業の推進のための情報提供などに加え、町のモデル事業として位置づけ、広報紙などを通じた活動の紹介をはじめ、他地域へ波及効果を及ぼすことができるよう団体間などの交流促進を支援する。 さらに第三セクター農業公園アグリピアの有するノウハウや施設等を活用し、活動の支援を行う。</p> <p>③ 企画内容は、どのような独創性・先進性がありますか。 先ず第1には、まちづくりの目的を、他の多くの地域のように経済活性化ではなく、地域住民がつながり、「安心して、楽しく愉快地に、そして誇りをもって暮らせるまち」の創造に置いていることです。しかし、このまちづくりは経済活性化と無縁ではありません。美しい地域を作ると言うことは、先ずもって地域住民が質の高い暮らしを享受するための活動ですが、それは他の地域の人にとっても魅力的な存在となるはず。その結果として、都市農村交流が進展することは十分に考えられることです。象徴的に表現すれば、本プロジェクトは「花より団子」ではなく、「花から団子」を目指した活動です。美しいまち（花）を犠牲にして経済（団子）を求めるのではなく、美しいまちの創造が経済につながるというのが私たちの考え方です。第2には、まちづくりを元気な人だけが実施する（全国のまちづくりのほとんどがこのタイプ）のではなく、高齢者も参加してできる仕組みを作っていることです。プロジェクトの会員に、あらゆる活動に参加する正会員と、みんなと連携して自宅の家や周りにだけ花を植える準会員を作り、高齢者や子供の参加を容易にしています。このような仕組みの結果として、高齢者もまちづくりに参加しているとの意識を持つことが可能になり、人と人がつながり、地域における高齢者の「居場所」を確保することができます。第3には、花によるまちづくりは全国的に展開されているが、それらの多くは特定の花を大規模に植えている場合が多いが、本プロジェクトではできるだけ地域の花を活用し、四季折々の花によるまちづくりを目指していることです。すなわち、かつて存在したなつかしい風景の再現を目指しています。象徴的に表現すれば、「なつかしい未来」の創造と言えると思います。</p> <p>④ この事業により、地域に新たな仕組みをどのように生み出すことができると思われますか。 花を媒介として、高齢者も子供も含めたすべての地域住民がつながりを取り戻し、お互いが助け合いお互い様の精神でコミュニティを再生する仕組みが生み出せると思われる。</p>
4 事業目標	<p>① この事業の目標をどのように設定し、その成果をどのような点から評価しますか。 ・地域住民のつながり → 活動に参加した地域住民の数 ・高齢者が元気になるかどうか → 高齢者の参加人数と笑顔 ・美しい里づくり → 「お花祭り」に来訪する他地区住民の数とマスコミでの取り上げ ・安心して、楽しく愉快地に、誇りをもって暮らせるまちを創るしくみ（ネットワーク）の構築 → 「花夢の里づくり」活動が続けていくことができるかどうか</p> <p>② この事業の目標を達成するために、どのような工夫をしますか。 ・できるだけ多くの地域住民と話し合いの機会をもち、「花夢の里づくり」の意義の理解に努める。 ・あらゆる機会を活用して、高齢者が楽しく参加できる工夫をする。</p>

<p>5 事業実施体制</p>	<p>① 統括責任者、事業毎の責任者など実施主体の体制を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統括責任者： 畑野川の里づくりグループ 事務局長：藤目節夫 ・まちあるき（地域の現状調査）： 畑野川ささゆり部会 会長：渡部清美 ・お花マップ作成： 近藤ナーサリー 近藤郷志 ・「花夢の里づくり」基本構想作成： 畑野川の里づくりグループ 会長：土居通秀 ・畑野川のお花祭り： 農業公園アグリピア 竹前誠人 さくらぎ 上岡理恵 ・情報提供及び広報等 久万高原町総務課 筒井由香 <p>② 多様な担い手が協働する仕組みによる会議体(概ね5者以上)の構成員を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑野川の里づくりグループ ・さくらぎ ・近藤ナーサリー ・畑野川ささゆり部会 ・久万高原アグリピア ・久万高原町 <p>③ 実施主体が協働により得られるノウハウや協働によって可能となる新たな取組み等を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑野川地区内の各種活動団体のネットワークによる総合的・包括的なまちづくりの取組み ・景観と花を活かした新しいコミュニティビジネスの展開
<p>6 事業スケジュール</p>	<p>① 事業の進め方、段取り等が分かるように、いつ、どのような活動を行うのか、事前打合せ、広報、実施、今後の検討など内容別に、具体的に記載してください。</p> <p>23年度は、地区の現状調査に重点を置くと同時に次年度の春のお花祭りの準備を行う。24年度は、「花夢の里づくり」基本構想の作成を始め、春と秋のお花まつり、種の交換会などの各種のイベントの開催、お花マップの作成、お花の学習会、広報紙の発行などの事業を予定している。具体的なスケジュールは次の通りである。</p> <p>23年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月：第1回まちあるき ワークショップ第1回（畑野川の景観と花について考える） 11月：来春のお花まつりのための配布種子検討 12月：春のお花まつりの事業内容の検討 1月：種子の配布と種蒔き 1～3月：春のお花まつりの準備 <p>24年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月：広報紙「美しい畑野川」発行 「秋のお花まつり」のための配布種子の検討 種子の配布と種蒔き 4～9月：「花夢の里づくり」基本構想の検討 5月：春のお花まつり開催 6月：第2回まちあるき お花についての聞き取り・アンケート調査 ホームページ作成・公開 7月：お花マップの作成 広報紙「美しい畑野川」発行 10月：「花夢の里づくり」基本構想の原案作成 「秋のお花まつり」開催 「花夢の里づくり」シンポジウム 広報紙「美しい畑野川」発行 10～12月：「花夢の里づくり」基本構想原案の説明会と住民の意見聴取 1月：広報紙「美しい畑野川」発行 1～3月：「花夢の里づくり」基本構想作成 ：「日本で最も美しい村連合」への加盟のための戦略の検討 <p>24年度はこれ以外に不定期に、「お花の学習会」を2、3回、「お花の種・苗交換会」を1、2回予定している。</p>

7 事業終了後の展開

① この事業は、今後、どのように継続し、または発展させる予定ですか。また、他地域への波及効果をどのように考えますか。

この事業はお花を植えて美しい集落を創ることだけが目的でなく、お花を通じて人と人がつながり、コミュニティが再生されることも目的としている。そこで、今後はこのお花作りを契機として、高齢者のケアや生き甲斐づくりなどの地域福祉の向上を行政と連携して目指していくことを考えている。地域福祉は行政の諸施策だけでは不十分で、地域住民の相互扶助を必要とするが、そのためには地域でのつながりの再生が必要であり、本事業はその糸口となると考えている。さらには事業継続のためには、この活動の将来像を明確に提示する必要がある。そこで、今回の「花夢の里づくり」を契機として、近い将来には「日本で最も美しい村連合」への加盟を目指すことを全町民が共通認識とする努力をあらゆる活動を通じて行う。この連合への加盟は久万高原町で申請する必要があるので、「花夢の里づくり」を全町的に展開する必要があり、行政と連携して活動したい。今回の事業が一定の成功を収めれば、町民の関心が高くなり全町への展開も容易になると思われる。また事業の継続には活動資金が必要であるが、「お花まつり」などのイベントを活用して都市農村交流で資金を獲得することと同時に、植栽した花の種の採集に心がけ、できるだけ少ない費用で活動する。

